

2020年5月11日

各位

会社名 テックポイント・インク
(Techpoint, Inc.)
代表者名 最高経営責任者兼取締役社長
小里 文宏
(コード番号：6697 東証マザーズ)
問合せ先 株式会社テックポイントジャパン
代表取締役社長 蓬田 宏樹
(03-6205-8405)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2020年2月14日に公表した2020年12月期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

当期の連結業績予想数値の修正 (2020年1月1日～2020年12月31日)

単位：千円ドル (千円)、1株当たり当期純利益については米ドル (円)

	売上高(注1)	営業利益(注1)	税引前当期純利益(注1)	当期純利益(注1)	【参考値】株式報酬費用控除前の当期純利益(Non-GAAP指標)(注1)
前回発表予想(A)	36,278 (3,948,135)	2,653 (288,726)	2,953 (321,375)	2,517 (273,925)	3,908 (425,308)
今回修正予想(B)	未定	未定	未定	未定	未定
増減額(B-A)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
増減率(%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期連結実績	32,027 (3,485,498)	2,395 (260,648)	2,449 (266,525)	2,194 (238,773)	3,461 (376,661)

	基本的1株当たり当期純利益(注2)	希薄化後1株当たり当期純利益(注2)	【参考値】基本的1株当たり当社株主に帰属する株式報酬費用控除前の当期純利益(Non-GAAP指標)(注2)	【参考値】希薄化後1株当たり当社株主に帰属する株式報酬費用控除前の当期純利益(Non-GAAP指標)(注2)
前回発表予想(A)	0.14 (15)	0.13 (14)	0.22 (24)	0.21 (23)
今回修正予想(B)	未定	未定	未定	未定
増減額(B-A)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
増減率(%)	—	—	—	—
(ご参考) 前期連結実績	0.13 (14)	0.12 (13)	0.20 (22)	0.19 (21)

(注1) 当社業績予想は米ドルでおこなっております。本書において円で表示している金額は、便宜上、2020年3月31日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値に基づき1米ドル=108.83円で換算された金額であります。

(注2) 2020年12月期の1株当たり当期純利益予想は、基本的発行株式数の予想加重平均株式数を用いて計算しております。

2. 修正の理由

新型コロナウイルスの感染拡大が当社に与える影響を現時点において正確に把握することは困難であり、当社の業績予想を現時点で合理的に算定することは困難であることから、2020年2月14日に公表した2020年12月期の連結業績予想を一旦取り下げ、未定とさせていただきます。但し、車載カメラシステム市場向け製品については、第4四半期において例年同様の季節要因による需要の増加が見込まれるほか、車載機器メーカーによる新規の採用済案件を新型コロナウイルスのパンデミック前に多数確保していることから、車載カメラシステム市場向け製品の2020年12月期下半期(第3四半期及び第4四半期)の売上は増加すると予想しております。したがって、当社の2020年12月期下半期(第3四半期及び第4四半期)の売上高は、2020年2月14日時点での想定には達しないと見込まれるものの、2020年12月期上半期(第1四半期及び第2四半期)の売上高よりも増加するものと見込まれています。結果として2020年12月期の通期では純利益を維持できると予想しています。いずれにいたしましても、今後、業績予想の算定が可能になった時点で、速やかに公表いたします。

なお、第2四半期の売上高についても現時点で合理的に算定することは困難であるものの、現時点での状況を前提とすると、第2四半期の売上高は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受けて減少し、7百万米ドル(762百万円)から7.2百万米ドル(784百万円)程度になる可能性が高いと見込んでおりますが、第2四半期におけるテープアウト費用は第1四半期と比較して大幅に減少することが予想されるため、第2四半期においても純利益を確保できる見込みです。第2四半期における売上高に関して、①監視カメラシステム市場向け製品及び②車載カメラシステム市場向け製品の売上につき、それぞれ以下のように予想しております。まず、①監視カメラシステム市場向け製品の売上高は、中国以外の国における需要の減少等により、2020年2月14日時点での想定よりも1百万米ドル(109百万円)強以上の減少が予想されます。次に、②車載カメラシステム市場向け製品のうちドライブレコーダーについては、車載機器メーカーによる新規の採用済案件を新型コロナウイルスのパンデミック前に多数確保しているものの、全世界的な需要の減少により、その第2四半期の売上は減少することが予想されます。一方、②車載カメラシステム市場向け製品のうちリアカメラやカーナビゲーションシステムの第2四半期における売上は増加すると見込んでおります。

以上